

世界に誇れる和歌山の農業!!

「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」が、今年8月26日、国際連合食糧農業機関（FAO）の審査を経て、世界農業遺産に認定されました。国内では17地域が認定されており、県内で認定は「みなべ・田辺の梅システム」に続き2例目となります。



わかやま県議会だより

WAKAYAMA PREFECTURAL ASSEMBLY

主な記事

2～3面 令和7年9月定例会の概要 / 4面 議会活動の紹介・県議会からのお知らせ

常任委員会活動レポート

Part1

6つの常任委員会のうち、3つの委員会の活動を紹介します。

福祉環境委員会

福祉環境委員会は、9月3日に調査を行いました。

県環境衛生研究センター（和歌山市）では、新庁舎となつてからの機能強化について調査を行いました。まず、検査室を目的別に細分化し、検査の流れに沿った部屋配置としたことによる安全性や効率性の向上などについて説明を受けた後、施設内の検査機器や設備の役割を確認しました。

中之島つどい館（和歌山市）では、健康長寿や地域の活性化を目的とした住民主体のまちづくりについて、県立南紀はまゆう支援学校（上富田町）では、PPA方式で導入した太陽光発電設備について調査を行いました。

福祉環境委員会では、今後も全ての県民が健康で活気のある暮らしができるよう取り組んでいきます。

※PPA方式：事業者が県有施設に太陽光発電設備を設置し、そこで得た電力を県が買い取る仕組み



県環境衛生研究センター



中之島つどい館

文教委員会

文教委員会は、10月6日に高野山学びの杜（高野町）で調査を行いました。

この施設は、こども園や小学校、中学校、公民館などを一体化した施設として、昨年度建設されました。

まず、学びの杜整備計画について、経緯や事業の概要について聞き取り、各施設が一体化することで相互の連携により、世代を超えた交流や学び合いが生まれ、生涯学習の拠点形成しているとの説明を受けました。

委員からは、住民を交えたワークショップで、児童生徒や利用者の意見を反映した、学びやすい、使いやすい施設であるとの意見がありました。

その後、木材をふんだんに使った各施設を視察し、こども園では紀州材を使っているとの説明を受けました。

文教委員会では、今後とも学校教育や生涯学習の推進等、教育全般の充実に向け取り組んでいきます。



高野山学びの杜



高野山学びの杜

農林水産委員会

農林水産委員会は、10月8日に県畜産試験場（すさみ町）で調査を行いました。

現在の試験研究の取組状況や試験場における家畜伝染病の侵入防止対策の重要性について説明を受け、安全で高品質な畜産物の生産について質疑・意見交換を行いました。また、2018年度から2024年度にかけて行われた施設改修について説明を受け、本館や畜舎等の状況を調査しました。

農林水産委員会では、今後とも、農林水産業従事者の所得の向上や担い手の確保等をはじめ、本県の基幹産業である農林水産業の一層の振興と発展に取り組んでいきます。



県畜産試験場



県畜産試験場

9月定例会の概要

会期:9月9日から9月26日までの18日間

▼ 一般質問議員 16人

9月16日(火)	9月17日(水)	9月18日(木)	9月19日(金)
鈴木 徳久 新島 雄 山下 直也 浦口 高典	中本 浩精 玄素 彰人 中尾 友紀 藤本 眞利子	三栖 拓也 上山 寿示 片桐 章浩 北山 慎一	尾崎 太郎 岩永 淳志 中西 徹 坂本 登

会期中の主な動き

▼ 特別委員会の開催

防災・国土強靱化対策特別委員会	9月16日
人権・少子高齢化問題等対策特別委員会	9月17日
半島振興・地方創生対策特別委員会	9月18日
行政改革・基本計画等に関する特別委員会	9月19日

▼ 特別委員会の設置

決算特別委員会を設置し、委員を選任	9月26日
-------------------	-------

議決結果・意見書等

項目	件数	概要	結果
予算案件 (知事提出)	1件	令和7年度和歌山県一般会計補正予算	可決
条例案件 (〃)	6件	職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例 等	可決
決算案件 (〃)	2件	令和6年度和歌山県歳入歳出決算の認定について 等	継続審査
人事案件 (〃)	8件	和歌山県教育委員会の委員の任命につき同意を求めるについて 等	同意
その他案件 (〃)	9件	令和7年度建設事業施行に伴う市町村負担金について 等	可決
意見書	1件	男性へのHPVワクチンの定期接種化に関する意見書	可決



紀三井寺公園陸上競技場・野球場

スポーツ拠点施設の在り方

問 老朽化が進む県立体育館、紀三井寺公園陸上競技場・野球場は、県内のスポーツ活動の拠点であるが、今後の拠点施設の確保に向けた取組について知事に伺う。

答 いずれの施設も長く県民から親しまれてきました。建築から60年が経過しているものの、紀の国わかやま国体を前に大規模改修を行うなど、拠点としての機能確保に努めています。

人口減少のもとで資源に制約がある中、まずは県有スポーツ施設の状況を再確認するとともに、利用者ニーズの把握や他の都道府県の整備状況の調査などを行い、拠点施設の在り方について検討していきます。

インターナショナルスクールの開校に向けて

問 2027年県内に開校予定のゴードン・ストウン・スクールの日本校について、開校までのスケジュールを伺う。

答 最初の受験時期や学校説明会などの具体的な時期については、未定と聞いています。

2027年9月に開校予定の場合は、本年11月末までに各種学校の設置計画書を県に提出してもらいます。県が計画の承認をした場合は、2026年4月末までに設置認可申請書を県に提出してもらい、認可、不認可を決定することとなります。

ヤングケアラー

問 ヤングケアラーへの支援体制の整備・強化について知事に伺う。

答 ヤングケアラーには様々なケースがあり、まだまだ十分に理解されていない部分が多くあると考えます。ヤングケアラーへの支援を進めるに当たり、ヤングケアラーの元当事者や専門家、市町村、学校などが問題解決に向けて意見交換することは非常に有意義なことだと思っており、そのような場の設置も考えたいと思います。

用語解説

ヤングケアラー…家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者(子ども・若者育成支援推進法)

林業振興

問 林業振興に向けた知事の考えについて伺う。

答 「木を伐って、使って、植えて、育てる」という森林の循環利用の促進を図ることが重要だと考え、本年3月に策定した林道整備計画に基づき、林道整備の加速化に取り組んでいきます。

また、機械化やデジタル技術の導入、公共建築物や民間非住宅建築物における積極的な紀州材の活用、林業従事者の所得向上などを推進し、和歌山「木の国」の循環型林業の実現に積極的に取り組んでいきます。



外国につながるりのある児童生徒への支援

問 母国の文化や知識、経験を尊重し、支援に生かしていくことが必要と思うが、どうか。

答 外国につながるりのある子どもが安心して学校生活を過ごすためには、学校全体で寄り添い支える体制の整備に加え、来日した理由や、母国の文化などを共通理解した上での配慮や支援が必要です。

県教育委員会では、受入体制や支援の在り方を学ぶ研修会等を行っており、今後も、このような研修会等を通して、学校全体での支援体制や個々の状況に応じたきめ細やかな支援の充実を図っていきます。

女性用トイレの整備・改善

問 女性用トイレの行列問題に関して、県の対応と施設改修を含めた今後の方針を伺う。

答 国土交通省では、トイレ設置数の統一的な基準を来年度には策定するという方針が示されています。既に県有施設では女性用トイレに行列が発生しないよう運用上の工夫をしながら、混雑緩和に努めています。

国基準策定後には、県有施設以外の関係機関等にも女性用トイレの混雑緩和を働きかけるとともに、県有施設を改修する場合は、国の基準を踏まえて改善を図るよう検討を進めていきます。

重度心身障害児(者)医療費 助成制度

問 助成対象を精神障害者手帳2級まで拡大してはどうか、知事に伺う。

答 障害のある方が安定した生活を送るためには、適切な医療の継続により病状の悪化を防ぐことが必要のため、本制度は他人の介助を受けなければ日常生活がほとんどできないほどの障害の状態で、医療費の負担が多い重度障害のある方を対象としています。当医療費助成は、国において等しく受けられる制度とすべきであり、今すぐに県での対象者拡大は困難ですが、全国知事会など様々な機会を通じて国に制度化を要望していきます。

有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム

問 世界農業遺産認定に対する所感と、認定を契機とした農産物の販売促進や観光振興について知事に伺う。

答 県内で2例目の認定であり、県としても世界に誇れるものがまた一つ増えた大変喜ばしく思っています。県産みかんの価値を広く国内外に発信する絶好の機会として、みかんや関連商品の付加価値向上につなげていきたいと考えています。

また、認定地域には魅力ある観光資源も多く、積極的に観光誘客に努めていきます。



石積み階段園

表層型浮魚礁の整備

問 浮魚礁の整備効果と今後の整備拡充について伺う。

答 県では、漁業者からの要望を受け、表層型浮魚礁を枯木灘側に4基、熊野灘側に2基配置しました。浮魚礁設置数の増加とともに、県内のカツオやマグロの漁獲量も増加し、設置前の2014年から5年間の平均が825トンだったものが、設置後の2019年から5年間の平均では1777トンと約2倍になっています。今後、増設に向けた取組を進めるなど、漁業の振興に努めます。



表層型浮魚礁

用語解説 浮魚礁…海の表層または中層に配置した人工物であり、回遊魚が漂流物に集まる習性を利用して魚を集めるもの

県立博物館における展示

問 本物を見たいというのが人情であるが、レプリカの展示はどのような見解で行っているのか。

答 常設展の展示物約550点のうち約40点は実物を所有しておらず、鑑賞の幅を広げ学習効果を高める観点からレプリカを展示しています。また、約10点は、実物はあるものの、照明や湿度、温度に敏感で長期の展示が難しいため、レプリカで代用しています。なお、いずれの場合も展示物にはレプリカである旨を表示しています。企画展などを通じて実物を公開できるよう努めています。また、より多くの方々に本物の文化財が持つ魅力を体験してもらえよう検討していきます。

県経済回復への取組

問 停滞している県経済を回復させるため、どう対応していくのか、知事に伺う。

答 本県は、世界的な潮流を促えて、いち早く変化に対応できれば、成長投資を取り込み、脱炭素先進県へ飛躍する可能性を秘めています。県では、「わかやま成長産業開拓ビジョン」を取りまとめ、将来の和歌山を担う成長産業の候補を示すとともに、脱炭素社会の中心県という評価を得て、和歌山で働き、暮らし、育つ人にとって、誇りと希望を持てるまちとなる将来を、ありたい姿として示しています。ビジョンに基づき選定した成長産業の開拓・集積を何としても実現させる覚悟で、投資意欲の高い企業へのアプローチに引き続き努めていきます。

本県の教育行政

問 自ら考え行動し、世の中や人のためになる人材を育てることが重要だと思うが、教育について知事の所信を伺う。

答 時代を生き抜く力を培うためには、主体的に学ぶ姿勢と基礎的な学力を身に付けることが大切です。また、ICT技術などを活用した個々の状況に応じた学びの環境づくりや、そして何より、一人一人の個性を存分に引き出して、誰もが活躍できる社会を作っていくことが大切です。こどもたちにとって何が最適かを常に考え、教育委員会と方向性を共有しながら教育の改革を着実に進めていきます。

ひきこもり支援事業

問 県内のひきこもり者の現状と、県の支援について伺う。

答 2022年度の内閣府調査から、15歳から64歳の狭義のひきこもり状態にある方は、県内に約6千人と推計されます。県ひきこもり地域支援センターでは、当事者や家族からの相談に応じているほか、サポーターの養成事業も実施しています。また、県や市町村のホームページや広報紙への掲載、民生委員、児童委員向け研修会等でのリーフレット配布などにより、ひきこもり相談窓口の周知を図っています。

道路の逆走防止

問 一般道と高速道路や高規格幹線道路の接続部における逆走防止対策の取組について伺う。

答 高速道路等への接続部分には、各道路管理者と連携し、進入禁止等の標識や誘導標示に加えて、誤進入のおそれがある場所にカラー舗装を行い、視覚的に分かりやすい対策を実施しています。万が一、逆走が発生した場合に備え、運転者に逆走を知らせる大型警告看板なども設置しています。

また、夜間や雨天時でも視認性の高い自発光式矢印板やLED式誘導標示を導入しており、今後も順次増設していく予定です。



逆走を知らせる大型警告看板

公立学校体育館の空調整備

問 県として、県立学校だけでなく市町村の小中学校も含めてどのような方針で空調整備を進めていくのか。

答 県教育委員会としては、平時ににおいても、熱中症から児童生徒を守るには冷房設備が必要と考えており、市町村教育委員会に対して空調整備整備臨時特例交付金など国の制度の更なる活用を促し、整備が進むよう、連携していきます。また、県立学校では整備に時間を要しない大型冷風機を全ての学校に設置したところですが、冷房設備の整備も学校の改修時期等を考慮しながら検討していきます。

米づくりの支援とほ場整備

問 米づくりの国庫補助事業の採択状況と、ほ場整備の取組について伺う。

答 農地利用効率化等支援交付金は、前身の事業を含め、2019年度から現在まで、本県で10地区12経営体から事業申請があり、このうち3地区3経営体で事業が採択され、トラクターや田植え機が導入されています。ほ場整備の取組としては、営農の効率化や省力化などの地域の要望を踏まえた働きやすい農地づくりを進めており、県内6地区において、約94ヘクタールの整備に着手しています。

用語解説 農地利用効率化等支援交付金…地域計画(地域農業の将来設計図)の早期実現のため、経営改善に必要な農用機械等の導入を支援する事業

Topics

議会活動の
紹介

近畿2府8県議会議長会議

8月7日(木)、和歌山・京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀・三重・福井・徳島・鳥取の2府8県議会の議長・副議長が円滑な議会運営と地方行政の推進を図ることを目的に府県相互の情報交換を行う近畿2府8県議会議長会議が奈良市で開催され、本県からは、岩田弘彦議長と秋月史成副議長が出席しました。

会議では各府県から計17件の議案が提出され、本県からは、防災・減災対策の継続的・安定的な実施と予算の確保などを国に対して要望する内容を盛り込んだ「国土強靱化の強力かつ計画的な推進について」を議案として提出しました。



全ての議案は異議なく原案のとおり決定され、それらは近畿2府8県議会議長会の議決要望事項として、開催県である奈良県が代表して国に対し要望活動を行いました。

第19回紀伊半島三県議会交流会議

9月1日(月)、奈良県橿原市において、和歌山・三重・奈良の県議会議員が共通の課題等について意見交換を行う「第19回紀伊半島三県議会交流会議」が開かれ、本県から岩田弘彦議長をはじめ7名の議員が参加しました。

会議では、「紀伊半島地域における獣害被害について」と「紀伊半島アンカールートの整備促進について」の2議題に対し、3県の議員21名による熱心な議論が交わされた後、県民の生命と財産を守り、紀伊半島地域のさらなる活性化のため、関連制度等の履行や必要な予算の確保などについて、3県が連携し国等に要望していくことで合意しました。



による熱心な議論が交わされた後、県民の生命と財産を守り、紀伊半島地域のさらなる活性化のため、関連制度等の履行や必要な予算の確保などについて、3県が連携し国等に要望していくことで合意しました。

関西広域連合議会 8月定例会

8月28日(木)、関西広域連合議会8月定例会が和歌山県議会議場で開催されました。一般質問には山家敏宏議員が登壇し、「ドクターヘリの運航」と「新たな広域自治・行政のあり方研究会」について質問しました。

ドクターヘリの運航については、「関西広域連合の設立の大きな成果として、広域医療体制の構築があり、その要がドクターヘリの運航だと考える。」

関西広域連合が主体となり「安全・安心の4次医療圏・関西」の実現に向け、府県域にとらわれない柔軟な運航体制の構築や重複要請時等に複数機のドクターヘリが補充し合う相互応援体制の構築が進められ、救命効果が高いとされる「30分以内での救急医療提供体制」を関西全体で実現している。

その広域医療体制の要であるドクターヘリが、整備士の急な休職などにより、7月から8月にかけて順次運航停止になったことは、由々しき問題と考える。

運航を請け負う事業者が1社だけであったことが原因と思うが、今回の運航停止を受けて、委託料を減額する予定はあるのか。また、リスク管理の観点から再発防止策をどう講じるのか。」とたどしました。

担当の徳島県の志田敏郎副知事からは、「ドクターヘリは、救急患者の救命率の向上や後遺症の軽減など、関西の救急医療において、極めて重要な役割を果たしており、運航停止については、重く受け止めている。」

関西広域連合管内や相互応援協定を締結している近隣9県で、予期せぬ運航リスクに対応するためのセーフティネットを構築しており、今回の運航停止期間中にも16件の応援運航がなされたが、管内の8機全ての運航を1社が受託していることのリスク、デメリットが、今回、顕在化した。

まずは、今回の運航停止を受け、関西広域連合で直接契約を締結している4機について委託料を減額し、また、来年4月からの契約更改に向け、多くの会社に参加しやすくなるよう委託条件について検討を進める。他の4機についても、情報共有を図るなど安定した広域的救急医療体制の確保に努めていく。」との答弁がありました。



山家 敏宏 議員

Information

県議会からのお知らせ

テレビ・ラジオ放送

定例会の質問と答弁の様子や委員会の審議状況、議案の審議結果などをお知らせしています。

テレビ テレビ和歌山(WTV)

県議会だより

開会日、質問日、閉会日の22時から25分間放送
(12月定例会の放送 12 / 3、10~12、15、19)

県議会手話だより

閉会日の約10日後に、22時から30分間放送
(12月定例会の放送 12 / 29)

ラジオ 和歌山放送(WBS)

県議会ダイジェスト

開会日、質問日、閉会日の21時30分から15~30分間放送(12月定例会の放送 12 / 3、10~12、15、19)

県議会ホームページ

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/200100/cms/www/index.html>

和歌山県議会

- 県議会のしくみや主な動き、議員紹介、議会日程、質問項目、本会議録など様々な情報を掲載しています。
- 議会開会中は、質問など本会議場での模様を生中継しています。また、中継録画やテレビ広報番組の録画をいつでもご覧いただけます。

県議会Instagram

議会の主な動きや委員会活動などの情報をタイムリーに発信しています。

YouTube和歌山県議会
公式チャンネル

テレビ広報番組を配信しています。

『点字版、CD版』の案内

本紙の点字版、CD版(ボランティアの方による朗読)を作成しています。

傍聴してみませんか

- 本会議は、申込みなしで傍聴できます。
- 委員会の傍聴は、事前の申込みが必要です。

令和7年12月定例会 会期日程(予定)

本会議	12月3日(水)
本会議(質問)	12月10日(水)、11日(木)、12日(金)、15日(月)
常任委員会	12月16日(火)、17日(水)
本会議	12月18日(木)、19日(金)

※要約筆記をご希望の方は、事前に議会事務局までお申し込みください。ただし、申込日によっては、ご希望に添えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。